



「多久から発信！SDGs」

「本との出会い」

先月4月30日は図書館記念日。続く5月は「図書館振興の月」に設定されています。また、4月23日から5月12日の期間は「子どもの読書週間」であり、本に触れるには格好の機会です。

さて、市内3校の義務教育学校には5つの学校図書館を備えています。現在、3校の蔵書冊数は、合計58,300冊ほどであり、子どもたちは物語の世界に浸ったり、疑問に思うことを調べたりして、本と向き合っています。令和4年度の1年間で、学校図書館の本を396冊(5年生)、389冊(9年生)も読んだ子どもいます。読書を通して、新たな知の獲得をめざす子どもたちの姿は、とても素敵です。

そんな子どもたちの学びがさらに広がるように、昨年度は、多久市ふるさと応援寄附金を活用して百科事典を購入しました。百科事典を活用した活動も、各校で意欲的に取り組まれていて、子どもたちの学びは、ますます豊かになっています。

今からさかのぼること、約100年前。高取伊好氏の寄附により大正13年3月に多久に図書館が創立されました。多久市では、すでに100年もの間、本が身近にある環境が続いているのです。令和6年3月で100周年を迎え、多久市ではさまざまなイベントが企画されています。義務教育学校に通う子どもたちだけでなく、多久市の多くのみなさんが本に触れることを通して「学び続ける多久市民」の姿を広げていきたいですね。



連載

野の仏ギャラリー ④8

阿弥陀如来・観世音菩薩二尊像

西多久町正蔵寺

板石状の塔上部に仏像が二体刻まれ、銘文から阿弥陀如来と観世音菩薩と考えられます。両像の頭部は浮き彫り、他の部分は線刻されています。右側の如来頭部には肉髻、左側の菩薩頭部には宝冠があります。如来の手は膝の上、菩薩の手は胸の前にあります。両像は頭光と身光を有し、蓮華の上に坐しています。銘文から、子が親のために(阿)弥陀宝号を十百万遍(回)唱え、建立した供養塔であると分かります。

銘一慶長十天乙巳阿弥陀佛□□浄栄禅定門

奉造立 観音薩□ 凉室壽清禅定尼

弥陀宝号十百万遍三月十八日孝子



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○肉髻は、如来の頭部が隆起した部分です。

○頭光とは白毫から発する光、身光は身体から発する光とされます。

○銘の慶長十天は西暦1605年です。

○□は読めない文字です。

市民文芸

◆「我の声わからなかった？」と悄気たる子が帰り行き我も悄気込む
尾形 節子

◆前世は兄妹だったかと記し居たる文章を見ず暇なく逝く
浦野 嘉恵

◆春彼岸陽射しの中に歩をすすむスミレタンポポ逢えるは楽し
梶原恵美子

◆ありがとうどんな時でもお守りの言葉になつて私を護る
野崎 隆幸

◆春の蛇音低く飛ぶ菜の花の如けかがやく明るさに酔う
川浪 信子

◆山笑ふ園児のこゑは空へ抜く
本村 則子

◆蕨狩峠の辻の地藏尊
中嶋 清子

◆この道は昔来た町花辛夷
富樫 明美

◆麗かや肝心なもの買ひ忘れ
おおやはな

◆透きとほる水音力に朝桜
大石ひろ女

◆つまずいた石にバネあり
励まされ
井上 東子

◆入園で園児励ます若いママ
中尾 和弘

◆老骨は若き命に励まされ
田代えみ子

◆泣き虫も旅立つ春目を細め
古賀 弘子

◆開門せず肩を落したムツゴロウ
田中 正春

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》